

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑師勝 1		
所在地	愛知県北名古屋市中村区熊之庄東出42-1		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成23年11月8日	評価確定日	平成23年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・共同生活ではあるが、1人ひとりの思いを大切にし、その人らしい暮らしが出来るようにスタッフ間で連携とりながら支援している。 ・個別に関わりを持つように努め、寄り添ったケアに心がけている。 ・行事予定表を作成し、普段と違った取り組みをすることで気分転換を図れるようにしている。 ・苑内に各委員会を設置し、事業所全体の質の向上に心がけ、皆さんに安心して過ごしていただけるように努めている。 ・地域との関わりを大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地にあり、ホーム内は広くて明るい。家族と共に入居者を支え地域社会と共生し、家族や知人が気軽に立ち寄ってもらえるよう、家庭的な雰囲気を大切にしている。温水式床暖房、大型乾燥機、強電解水生成装置、マイナスイオン浄化装置、AED、スプリンクラー等が設置され、感染予防に努め安心と安全に配慮されている。運営会社のバックアップ体制が整っており、管理者は管理業務、職員はケアに集中することができ、働きやすい環境になっている。入居者の高齢化と重度化が進み、医療連携、サービス提供体制をとり、入居者と家族の希望に応えられるように、話し合いを重ね看取りにも取り組んだ。地域の祭りや行事には、地域の方の細やかな配慮があり楽しく参加している。また、中学生による体験学習が3年目となり、入居者にとって来苑が楽しみになっている。地域の認知症に対する啓発活動には、ホームの職員がキャラバンメイトとして参加している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
		○	2. 利用者の2/3くらいの				
			3. 利用者の1/3くらいの				
			4. ほとんど掴んでいない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
			2. 数日に1回程度ある				
			3. たまにある				
			4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は事務所、玄関に掲示してあり朝礼時に唱和し共有している。	理念は事務所の目につくところに掲示し、毎日朝礼で唱和しており、職員に浸透し実践されていることがうかがえる。その他に「お客様との約束10ヶ条」もあり、ホームが目指すサービスのあり方を示したものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に参加したり、近所のスーパーや喫茶店などを利用する事により交流している。 ・挨拶するように心掛けている。	地域のお祭りや行事には細かな配慮をいただいている。入居者は町の回想法センターにも定期的に訪れている。また、地域の中学校との交流も定着しており、ふれあいを楽しんでいる。近所のスーパーや喫茶店では入居者を名前で呼びかけられる関係になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の行事に参加する事で理解をして頂けるようにしている。 ・管理者は市の依頼により、認知症の勉強会等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度開催しており、会議の際の意見等を参考にサービスの向上に努めている。 ・ミーティングにて報告している。	年6回開催し、出席者は入居者家族代表、自治会長、民生委員、町内会長、市介護保険課、地域包括支援センター、本社職員、ホーム職員である。ホームの活動や運営状況、質疑応答などを行い、理解と支援を得ている。議事録を回覧することにより、全職員が確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・日頃より相談をしたり、情報交換をしたりと協力関係を築いている。	市職員は運営推進会議にも出席し、相談や情報交換をしている。また、ホームの職員は地域ケア会議に参加したり、認知症に対する啓発活動には、キャラバンメイトとして参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ミーティングや朝礼時等に話があり、正しく理解できるようにしている。 ・日中は玄関の施錠はせず、自動扉は手動にて対応している。	理念に「権利を守ります」とあるように、身体拘束をしない抑圧感のない自由な暮らしを心がけている。夜間、転倒の心配がある方にはセンサーを設置して留意している。車いすは原則移動時のみ使用し、普段は入居者に合った椅子で寛いでもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・ミーティングにて学ぶ機会がある。 ・外出や外泊後、入浴時や更衣介助の際には身体の観察を行ない、小さな傷やあざも報告し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・リーダー等が研修会で学び、ミーティングにて報告する事で全スタッフが学べるようにしている。 ・現在1Fには利用されている方はいないが、今後利用の方もおみえになる事を考え、支援に結びつけられるように学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・その都度、理解し納得していただけるように説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議にはご家族に代表とにて出席いただき、意見を言っていたいっている。 ・外部評価の家族へのアンケートの結果をもとにより良い運営に努めている。	9月に家族個別懇談会で近況を伝え今後の話し合いを行い、4月には家族会を開催している。入居者、家族、職員が一緒にお弁当を食べ、要望などを聞いている。また、毎月遊楽苑通信を郵送し、担当者が家族別に個別のメモを添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者や管理者は個別にて懇談し意見をきいている。 ・ミーティングにて意見を出している。	本年度から、防災、行事、感染予防、評価、美化、事故防止の委員会を設置した。委員会にはそれぞれ職員が関わり、質の向上に積極的に取り組んでいる。毎月職員会議を行い意見交換している。管理者は2月に職員と個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・面談時に現状報告し、働きやすい環境、レベルアップできるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人研修、勤務年数に応じた研修を受ける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡協議会に出席し、他事業者と交流する機会がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前の面接において、ご本人の声を聞き安心して過ごしていただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前の面接において、ご家族の思いや不安なことなどを聴き、一緒にご本人を支援していけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で思いや要望を聴き、どのように支援していくか話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・コミュニケーションをとりながら、家事活動等と一緒にこなす中で関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・来苑時、懇談会等にて思いや要望を聴き取りながら、共に支えあう関係を築いている。 ・些細なことでも連絡、報告をし、来苑しやすい環境作りに心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・来苑しやすい環境作りには心がけている。 ・苑の近所の喫茶店には出かけられるが、今までの馴染みの人や場所への関係を継続していくのは難しい。	家族の協力もあり、冠婚葬祭には入居者も参加しており、家族との絆を大切にしている。毎月、趣向を凝らしたリズム体操やマジックショーを行い、それが入居者の楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・状態の変化等に伴い、席替えをしたりと配慮している。 ・ご本人の意思を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居後も必要がある際には相談や支援ができるように努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・理念に基づき、ご本人の希望や思い等をコミュニケーションをとる中で聴き取るようにしている。 ・ご家族より情報を得て、ミーティング等で話し合っている。	家族には、センター方式（情報収集の方法）に記入をお願いしている。3カ月毎の「生活状況のお知らせ」に健康状態や食欲、排泄、入浴、睡眠、生活状態、その他を記入して渡している。同書類には家族の意見欄があり、会議で話し合い、本人や家族の意向の把握をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントシートやセンター方式を活用し、ご本人の把握に努めているが、全ての把握はしきれていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・できる事,できない事シートを活用したり、日々の生活の中から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者がモニタリングし、ミーティングにて話し合いを行っている。 ・ご家族とは個別懇談会や家族会の際に意見、要望を聴き取り、ケアプランに反映するようにしている。	職員間で介護計画に沿って実施されている支援状況の確認を毎月実施している。また、担当職員所見や生活状況のお知らせを踏まえ会議で短期目標の見直しを行っている。基本は3カ月だが変化があれば随時介護計画を見直し、入居者、家族に内容の説明と同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活状況を個別に記録し、スタッフ間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状態に合わせ、臨機応変に社内サービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の回想法センターの催し物に参加している。 ・近所のスーパーや喫茶店の利用 ・地域のボランティアによる演芸を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時に苑の協力医を伝え、ご本人やご家族の希望でかかりつけ医を決めていただいている。 ・かかりつけ医には苑での状態等の情報を提供している。	入居時に本人や家族の意向を聞き取り確認している。かかりつけ医への受診を希望される方は家族に受診対応をお願いしている。年1回の健康診断も家族に依頼し、直接かかりつけ医と話をしてもらう機会をつくっている。ホームの協力医の往診は定期的にあり、歯科医や眼科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日頃より苑内看護師とは状態の報告、相談をし連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中は面会に行き、病棟の担当NSより情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時、年に1度の個別懇談の際には、重度化した場合やターミナルについてのご家族の思いを書面にて確認をするようにしている。	入居契約時に本人、家族と話し合いを持ち、意向を確認している。看取りの経験もあり、入居者の高齢化、体力低下を考慮し、状況に応じて入居者、家族の意思をその都度確認しながら、ホームでできる限りの支援をしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアル作成しスタッフ全員で共有している。 ・年に1度、消防署職員の指導のもとAEDの訓練をおこなっている。 ・普通(上級)救命救急の講習を受けているスタッフもいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練年間計画に基づき、色々な時間帯を想定し定期的に訓練を実施している。 ・防災委員会を設置し、対策についての話し合いをしている。 ・地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議で協力のお願いをしている。	職員の中より防災委員を決め定期的に避難訓練を行っている。今年は、初期消火や通報、避難訓練を入居者と一緒に実施した。また、消火器の使い方やAEDによる心肺蘇生法の研修も行われた。管理者は地域の防災時の炊き出し訓練に参加をした。災害時には、本社及び各事業所に連絡が取れるように、車両に無線が取り付けられている。	運営推進会議で議題にあがり、災害時の助言をいただいているが実施までには至っていない。事業所の訓練だけではなく、地域住民の参加や協力が得られるよう継続して呼びかけていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・言葉づかいには気をつけ声かけを行っている。 ・接遇について全職員が学んでいるが、馴れ合いになっていると感じる事もある。	職員は言葉遣いや声かけに気をつけ、入居者の誇りやプライバシーを損なわないよう心がけている。トイレ誘導する時には、本人が聞き取れる程度の声かけを行っている。評価委員会があり、常にプライバシーについて話し合いがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・行動の前には声かけをし、ご本人の意思を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご本人の意思を尊重する支援に心がけているが、スタッフのペースになっていると感じる事もある。 ・レクリエーションへの参加、外出の際にはご本人の意思の確認をし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご自分で出来る方は、洋服を選んでいたり、お化粧品のお手伝いをしたりしている。出来ない方には声をかけながら一緒に行っている。 ・2ヶ月に1度訪問美容室を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立を考えたり、買い物に行ったり、下ごしらえをしたりと一緒に準備をしている。 ・食事はスタッフも一緒にとっている。	献立は本を見ながら入居者と一緒に考え買い物に行っている。法人内の管理栄養士に献立をチェックしてもらうこともある。誕生日には外食をすることもある。入居者の状態に合わせ、とろみのあるものにしたり、きざみ、ソフト食を利用している。また、今年は庭園でグリーンカーテンに挑戦し、収穫した野菜が食卓にあがった。また、入居者に教えてもらい梅干しとらっきょう漬けを行った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎食摂取量と水分量を記録し、状態の把握をしながらご本人の状態にあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・1人ひとりの状態に応じ支援している。 ・義歯は基本的には週3回洗浄液につけて消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・日々の生活記録から排泄状態を把握し、ご本人に排泄の有無を確認しながらトイレ誘導している。 ・トイレでの排泄に心掛けている。	排泄の際には、入居者のプライバシーや尊厳を守り、本人に不快な思いをさせないよう努めている。入居者の個々の状態を把握し、チェック表を付けることによりパターンを把握し、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・冷牛乳を飲んでいただいたり、お腹マッサージをしたり、散歩にて身体を動かしていただいたりしながら自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・1日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日入っていただいている。 ・ご本人の要望にそえないこともある。	入浴は2日に1度が基本ではあるが、本人の希望があれば毎日でも対応している。体力低下により湯船につかれない方には座シャワーを利用している。入浴剤や菖蒲湯などを使用し、入浴を楽しんでもらっている。入浴を拒否される方には、時間や日を変えて促している。湯や足ふきマットは一人ひとりかえ、浴槽は強酸性水で消毒し、衛生面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室にて昼寝をしていただいたり、1人ひとりの生活パターンや習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬ミスがないように、二重、三重に確認をするようにしている。 ・処方箋を個人ファイルに綴じいつでも確認できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・センター方式やアセスメントシートにより把握し、ご本人の状態に合わせての気分転換の方法を考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・スーパーや喫茶店に行ったりと希望を聴きながら支援するように努めている。 ・外出したい場所等をお話をする中で聴き取るようにしている。	その日の入居者の状態を見ながら、近隣の喫茶店や買い物、散歩に出かける機会を設けている。冠婚葬祭にはできる限り出席できるよう家族に協力をお願いしている。年1回の家族会で花見や名古屋城の菊人形展など季節に応じて外出している。入居者の誕生日には、外出に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には事務所に管理をしている。 ・希望があればご自分で持って頂いているが、使われることはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望に応じて電話はかけていただいている。 ・携帯電話を所持されている方は、ご家族との通信がスムーズに行くように送受信のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感のある作品を作成し掲示したり、庭で咲いたお花を飾っている。 ・色々なジャンルの音楽を流すようにしている。	日当たりのよいリビングには、様々な椅子が置かれ、入居者はお気に入りの椅子に座りテレビを観たり、本を読むなどしている。壁には季節の作品が飾られている。空気清浄機や加湿器、また、天井裏にはマイナスイオン浄化設備があり、入居者の健康に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・種類の違うソファを設置したり、畳の場所もある為ご自分の好きな所に座って過ごされている。 ・利用者同士の関係を把握し、共に過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時、使い慣れた物を持参して頂き、ご本人とご家族で過ごしやすいように部屋作りをしていただいている。	居室にはベッドや鏡台、テレビなど本人の馴染みの物が置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。壁には写真を飾るなどその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・照明、手すり等安全に配慮し、トイレや風呂場の場所がわかりやすいように表示し、自立支援に努めている。		

(別紙4) 平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652
法人名	
事業所名	
所在地	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所内に基本理念として「家族と地域の連携を大切にします」と掲げてあり、朝礼時に唱和している、。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に参加したり、近所のスーパーや喫茶店を利用している。 ・散歩時にはゴミ拾いをしながら、出会った方と挨拶を交わすようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・依頼があれば、管理者は認知症の勉強会に出席し話をすることもある。 ・管理者はキャラバンメイトであり、市の話し合いに出席し、啓発活動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度開催している。 ・議事録にて内容は誰でも見られるようになってはいるが、話し合いまでは行っていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域ケア会議に参加し、情報交換を行なっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・代表者が研修に参加し、ミーティング時に報告をしている。今後も勉強会を行っていく予定。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加している。 ・入浴時や更衣時に傷やあざがないかの確認をし、身体記録に記入し、報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・法人内のリーダー会議で学ぶ機会があった。 ・実際にそれらを活用しての支援はされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・理解、納得していただけるような説明に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・年1回家族懇談会を開催し、意見や要望をお聴きしている。 ・運営推進会議に家族代表者に出席していただき、意見を聴く機会としている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティング時に意見交換している。 ・管理者、主任、リーダーが話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・社員旅行があり、代表者と話せる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内外への研修への参加を促し、シフトも考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域等で開催される研修会に参加し、同業者と交流できる場となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前の生活状況や、ご本人やご家族の思いを受け止め、安心して過ごしていただけるように努めている。 ・コミュニケーションをとりながら、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の面会時には、近況報告し、ご家族からの話には耳を傾け、話やすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・会話の中で、実情や要望を知り、何を必要としているかを見極めながら対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共に過ごす中で、信頼関係を築いている。 ・日常生活の中で残存機能を活かしながら、一緒に行なう中で感謝のことばを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月に1度、担当者からご家族に一言メッセージをお渡ししたり、3ヶ月に1度の生活状況のおしらせ、面会時には苑での様子を報告し、ご家族と共に支えていく関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族やご親戚等、気軽に来ていただけるような雰囲気作りに心掛けている。 ・ご家族の協力があれば可能となることもあるかと考える。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・スタッフが間に入り、関係がスムーズいく様に支援している。 ・家事活動やレクリエーション等を通して、関わりを持っていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・来苑された際には、快く受け入れしお話ししやすい雰囲気作りに心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の会話の中からお本人の思いを聴いたり、会話の困難な方は、スタッフ間で話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時、ご家族にセンター方式(家族版)への記入に協力していただいたり、アセスメントシートよりご本人の把握に努めている。 ・ご本人やご家族との会話の中から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の記録から把握し、全スタッフで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1度のミーティングでモニタリングを行ない話し合いをしながら、ご本人やご家族の要望等を反映し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録に日常の様子を記入し、スタッフ間で情報を共有している。 ・ミーティング時に話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・社内サービスと連携をとり、検討しながらよりよいサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事や回想法センターの催し物に参加したり、近所の喫茶店やスーパーを利用している。 ・地域のボランティア、有料のボランティアを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時にご家族とかかりつけ医についてお話しし、かかりつけ医を決めていただいている。 ・かかりつけ医は月に2回往診がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・苑の看護師に状態の変化や気づきを報告、相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・面会に行き、ご家族や医療関係者と情報交換をするように努めている。 ・退院時には説明を受け、ケアの指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族懇談会にて、終末期のあり方の希望を書面にて確認を行なっている。 ・重度化した場合は、かかりつけ医や家族と話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年に1度消防署よりAED、消火訓練の研修を受けている。 ・マニュアル化はされているが、応急手当の訓練は行なわれていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に利用者と共に様々な時間帯を想定し避難訓練を行っている。 ・地域の災害時の炊き出し訓練に参加した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーに関する話は、ご本人の聞き取る事のできる大ききで話すようにしている。 ・言葉遣いは、スタッフ同士でお互いに気を付けるように声をかけあうようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常のコミュニケーションの中から、思いや希望を聴き取り、自己決定しやすいように努めている。 ・行動する前には、ご本人の意思を確認するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な1日の流れはあるが、その日の体調や気分に合わせて過ごしていただいている。 ・ご本人の意思を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洋服を選択していただいたり、整容に気をつけ、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。 ・2ヶ月に1度訪問美容室を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・メニューを考え、買い物、調理の手伝い、食器洗い等、1人ひとりの状態に合わせてスタッフと一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の食事量、水分量を記録、把握し、摂取量を確保できるように支援している。 ・状態に応じて、とろみ剤を使用したり、きざみ食にしたり、ソフト食を利用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時、毎食後に口腔ケアを実施している。 ・声かけ、見守り、介助と1人ひとりの状態に合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・1人ひとりの排泄のパターンを記録により把握し、声かけ誘導にてトイレで排泄が出来るように努めている。 ・日中のオムツ使用はできるだけしないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘対策として、毎朝冷牛乳を飲んで頂いたり、水分の摂取に努めている。 ・ラジオ体操や散歩等の運動を促している。 ・排泄時や入浴時に腹部マッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・基本的には2日に1度の入浴となっているが、希望があればいつでも入っていただけるように努めている。 ・スタッフの都合で入浴できない日もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その日の体調や睡眠不足の状況に応じて、昼寝の声かけ等を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋が個人ファイルにあり、いつでも確認することができる。 ・薬は苑で管理し、服薬支援している。 ・変更時、臨時薬がある際には、看護師より連絡ノートにて連絡があり、スタッフ間で把握し、様子観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・歌や散歩、買い物や喫茶店にでかけ、気分転換できるように支援している。 ・季節に合わせた行事を計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・その日の希望や天候によって、食事の買い物や散歩に行ったりと外に出る機会を作っている。 ・花見を兼ねた家族会や、買い物・観光ツアーを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には事務所で管理している。 ・お金を所持されている方もみえるが、使う機会がなく所持のみとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人の希望があれば、いつでも電話をかけていただいている。 ・年賀状を用意し、書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じていただけるように、お花を飾ったり、壁画を制作している。 ・光や温度調節はこまめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用部には畳スペースがあったり、形の違う椅子が用意しており、お好きな場所で過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご自宅で使われていた物や家具等を持ち込んでいただき、安心して過ごしていただけるように努めている。 ・居室にはご家族の写真を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレはわかりやすいように大きく表示してある。 ・共用部や廊下が広くシルバーカーを使って歩く事ができる。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム遊楽苑師勝

目標達成計画

作成日: 平成23年12月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	防災訓練への地域住民の参加や協力が得られるような呼びかけの実施	1年に1度は地域住民参加の防災訓練を実施する	・運営推進会議での協力のお願いをする ・回覧板にて町内会の皆さんに協力、参加の呼びかけをする	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。